



高山西ロータリークラブ

例会報告

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 大垣共立銀行 高山支店 4 F
- 会長 折茂 謙一
- 幹事 米澤 久二
- 会報委員長 脇本 敏雄



「子供だるま」 脚手 康介

<会長の時間>

昔ある村にその日の食べ物にも事欠くようなAという貧乏な家がありました。ある冬の夜、乞食のような汚いおじいさんが何とか一晩泊めてもらえないだろうかと尋ねてき



ました。その前におじいさんはBという金持ちの家でけんもほろろに断られていました。Aさんの家には布団もないけどどうぞおあがりください、と言って自分たちが食べようと用意していた夕食をそのおじいさんにあげました。翌日おじいさんは、お礼にこれからはあなた方が望むものはなんでも叶えるようにしてあげようと言って辞去しました。それからというもの、その家族は日に日に豊かになり大金持ちになりました。福の神だったのです。その話を聞いた

Bという金持ちが、今度乞食のような汚い年寄りが来たら、さっそく泊めてやって自分もさらに大金持ちになりたいと思いました。次の冬、その金持ちの家に汚い年寄りが一晩の宿を頼みました。翌日その年寄りに自分にも望むものが何でも手に入るようにしてほしいと頼みました。ところがその金持ちははすることなすことすべてうまくいかず、次第に貧乏になってしまいました。この年寄りが貧乏神だったからです。

こういうお話を聞いたことがあると思います。この話は、人は見か目で判断してはいけないのだ、ということをお話しているのだと思っていました。この話の真意はもっと深い意味があるのだと最近やっとわかりました。Aさんは自分が苦しい状態にもかかわらず、自分以上に困っている人を助けたわけです。人のために役にたつ社会奉仕をすれば、結果的には報いられるということです。一方Bさんは形の上では人助けをしているわけですが、利益追求のためであり自己中心的であるため、結果的に報いられないことになったということです。おじいさんを助けようとする心と利用しようとする心で差が出たわけです。次に、チャンスの女神には前髪はあるが後ろ髪がないといわれます。Aさんいきなり前髪をつかんだのですが、BさんはAさんの様子を観察して、これはチャンスであると思って前髪をつかんだのですが、すでにその時にはピンチになっていたというわけです。一瞬の決断が重要であるということです。さらに事業を起ち上げるに、は自己資本は問題

ではないのだということです。自己資本がなくても事業を起ち上げることはできるし、自己資本が多いから成功するというわけでもないということです。最後に、これが一番重要かもしれませんが、ピンチとチャンスは全く同じ姿をしているということです。

日本の昔話にはとても奥深い意味が含まれていると思います。

<幹事報告>

◎高山市フットボール選手会、 高山市体育指導委員会より

- ・第 59 回高山西 RC 杯争奪
高山市フットボール大会
の共催について

日 時 3 月 1 0

日(日) 午前 9 時より

会 場 飛騨高山ビックアリーナ

◎ぎふ清流国体高山市実行委員会より

- ・ぎふ清流国体高山市実行委員会第 5 回総会(併催総会)の開催について

日時 3 月 5 日(火) 受付 1 2 : 3 0 ~

記録映像上映会 1 3 : 0 0 ~ 総会 1 4 : 0 0 ~

会場 ひだホテルプラザ

◎高山市社会福祉協議会より

- ・平成 24 年度高山市社会福祉協議会第 4 回評議員会の開催について

日時 3 月 2 2 日(火) 午後 2 時より

場所 総合福祉センター 3 階作業室

議案 平成 24 年度事業計画、一般会計資金収支予算及び特別会計資金収支予算について

<例会変更>

高山中央 … 3 月 11 日(月) は、職場訪問例会のため、

打江精機(株) に変更

3 月 25 日(月) は、定款第 5 条第 1 節により休会

可 児 … 3 月 28 日(木) は、夜間例会のため 変更

<受贈誌>

ロータリー財団(ロータリー補助金ニュース 2013 年 2 月号)、
岐阜県環境生活部人権施策推進課長「人権だより No. 52」

奉仕を通じて平和を

例会報告

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	42名	5名	47名	51名	92.16%
本日	36名	—	36名	51名	70.59%

<本日のプログラム> クラブ奉仕委員会

クラブ奉仕委員長

田中 武

本日はクラブ奉仕委員会の担当委員会で御座います。本日のゲストのご紹介を申し上げます。

社会福祉法人 高山市社会福祉協議会 丹生川支部コーディネーター（平たく言うと市役所の下請け）小林俊輔さんで御座います。

お生まれは高山で昭和50年2月16日生（37歳）

- ・ 大阪府の南海福祉専門学校を卒業され20歳の時、阪神淡路大震災を経験（災害ボランティアとしてちょっと活動）卒業後、帰省せず大阪市内の特別養護老人ホームに就職（22歳で帰省）
- ・ 平成9年4月 社会福祉法人 宮村社会福祉協議会に入職 福祉活動専門員と在宅看護支援センター ソーシャルワーカーを兼務
- ・ 平成17年2月 高山市の合併に伴い 社会福祉法人高山市社会福祉協議会職員となり中越地震、中越沖地震・能登半島地震等の災害支援に関わる
- ・ 平成19年4月 高山市ボランティアセンター ボランティアコーディネーター20年4月～21年3月まで荘川支部を兼務
- ・ 平成23年3月 東日本大震災支援に伴い「飛騨高山ボランティア支援センター」の主務として務める（高山市ボランティアセンター内）
- ・ 平成23年6月 丹生川支部コーディネーターとして現在に至る

本日は、婚活について面白～おかしくお話して頂きますので宜しくお願い致します。

ひだイベント実行委員会 事務局 小林 俊輔 様



「ひだイベント実行委員会」の結成は10年前。きっかけは「大勢でキャンプファイヤーがやりたい!」。当時、大野郡・吉城郡の町村社協職員が有志で集まり「出逢いにコンキヤ！（コンパとキャンプをドッキング）」を企画し、25対25のイベントを開催しました。岐阜県からの補助金もあり、1回かぎりのイベントのつもりでしたが、スタッフの未熟さと参加された男性の不甲斐なさが相まって、もう1回!もう1回!と気がつけば10年の月日が流れていました。2回目以降の企画は補助金もなく、すべて参加費でまかない企画・運営を実行委員会スタッフがボランティアで行って来ました。毎年2～3回のイベントを主催し、これまで数組が成婚されています。

4年前からは、自主企画を休止し、高山市福祉課が主催する結婚支援事業の企画・運営をボランティアでサポートしています。

イベント内容は女性を主体に考え、自己紹介タイムやゲームを織り交ぜながらお互いをちゃんと知ってもらえる工夫を毎回凝らしています。ちなみに男性陣については、イベント3日前に集合していただき「事前セミナー」を欠かさず行っています。このセミナーは男性同士が当日初対面にならないための顔合せとコミュニケーションやファッション講座を行っています。またイベントのチェックポイントをお伝えしたり、スタッフとの距離感を縮めていただくための時間ともなっています。

思い出深いイベントは、2010年の夏「乗鞍でご来光を眺めよう!」と企画したものの…当日は激しい濃霧。乗鞍には入山できたものの…ご来光どころか視界2mの純白の世界を彷徨っただけで終わってしまい…参加者のテンションも上がりず散々な結果だったことをいまでも覚えています。

参加される皆さんは「出逢い」を強く求めている反面、イベントに参加することが「自分は婚活している」と思い込んでしまい、あと一步を踏み出さない方も多くみえます。

個人を重要視する社会構造の変化と、人に頼らなくても生活ができてしまう便利さが晩婚化を進めているのかもしれない。

いまこういう時代だからこそ、地域の皆さんが「お節介役」となり、もっと「結婚」の「良さ」を伝えていただければと思います。「結婚」に対する「負のイメージ」ばかりが先行しているような感じがしています。

わたしたちの最終目標は結婚がステータスとなり、「イベントの必要性がなくなる」ことです。



奉仕を通じて平和を

例会報告

<ニコニコボックス>

●高山中央RC 今井 俊治 様

久しぶりにお伺いいたします。宜しくお願いいたします。

●高山中央RC 永井 信次 様

久しぶりにメーキャップさせていただきます。宜しくお願いします。

●折茂 謙一さん

①本日は小林俊輔様、よろしくお願いします。

高山中央RCの今井俊治さん、永井信次さん、ようこそ。

②2月12日ベスと一緒に國島市長を表敬訪問しました。

●米澤 久二さん

・社会福祉協議会 小林様、本日の卓話よろしくお願いします。

・12日にエリザベスと市長面会に行きまして。国際奉仕委員長の鴻野さん、カウンセラーの伊藤さんお疲れ様でした。また事前に新聞社周りをして頂きました河渡さん、ありがとうございました。

●田近 毅さん、田中 武さん

小林さんのご来訪を歓迎申し上げます。婚活のお手伝いよろしくお願い申し上げます。また福祉会館で3月10日に行われる3.11を忘れない絆イベントの企画よろしくお願いします。会員の皆様もご参加下さい。

●米澤 久二さん、堺 和信さん

高山中央ロータリークラブ永井さん、今井さん、ようこそいらっしゃいました。今井さん、雪が溶けたらテニスのコーチ、よろしくお願いします。

●堀川 和士さん、垣内 秀文さん

永井様、今井様のご来訪を歓迎いたします。

●東 庄豪さん

前回いただいたクマヒラさんの「抜粋のつづり」を母85歳に渡しました。渡して読む母の姿に、人生について少し考えさせられました。素晴らしい本をいただき感謝します。

●内田 幸洋さん

明日からヤクルトスワローズの沖縄キャンプの視察に行きます。今年は話題が少ないですけど、ガンバッテ欲しい。



● ● ● 一期一会 駒手 康介 ● ● ●

2005年9月、我が家に初めての息子がやってきました。スイス原産の大型犬で、名前は「しゅうば」と名付けました。私はそれまで本当の意味で犬と暮らすということについて全くの無知でした。ただ家を建てたら大きな犬を飼いたい、という憧れしかなかったのです。エサの知識も、犬本来の習性についても、大事に飼うことが最良だと考えていました。しかしこうして八年経つ中で、飼うから一緒に暮らすという概念が変わり、心から人間と犬を超越した絆を感じるようになったのは、現在四歳の我が子が生まれてからのように思います。私はしゅうばの目を見るたびに、毎日感謝と反省の念に苛まれます。犬は目で語り、尻尾で感情を表現し、いつ何時も私の愛情を求めます。そしていつでも人間に底知れぬ愛で報いてくれるのです。私はその思いに応えられているのだろうか？常にそんな思いが駆け巡り、毎日呪文のように語りかけてしまいます。「ありがとう、そしてごめん」と。

● ● ● 一期一会 垂井 政機 ● ● ●

仕事で一週間以上地方に滞在する機会が多いのですが、5年ほど前のこと、鹿児島へ行った時仕事帰りに「明るい農村」という居酒屋にたまたま入ると、最初のうちはおやじは口もきいてくれないし、おかみさんも忙しく立ち働いているだけで取り付く島もないといった風でしたが、それでも2~3回通ううちにいくらか打ち解けてきてくれ、いつもの様に適当に肴を注文して薩摩焼酎を呑みながらふと見ると、高山の久寿玉正宗が置いてあり、驚いて鹿児島で飛騨の酒は珍しいなと声をかけると、親父は岐阜に嫁いだ娘が送ってくれたと嬉しそうで、鹿児島育ちだけど本当は日本酒が好きなんだと言う。その翌年、又鹿児島へ出張の折久寿玉を2升土産に持参すると大層喜んでくれ、それ以来知己の付き合いとなった。そんな付き合いが2~3年続いた頃、おやじから店を閉めるとの手紙と幻の銘酒森伊蔵が届いた。私の全国行脚の居酒屋めぐりもいろんな人との出会いがあり、これも一つの一期一会かなと思うことです。

